

第 1 回
室蘭市ごみ処理・リサイクル事業あり方検討委員会
会議録

開催日時	令和元年 6 月 28 日（金）14:00～
開催場所	室蘭市役所 2 階大会議室
出席者	委員：亀田委員、吉田委員、森川委員、菊池委員、安部委員、齊藤委員、 遠藤委員、石橋委員、西畑委員、山内委員、鈴木委員、塩越委員 市側：杉本部長、本間課長、鈴木主幹、櫻井係長、菊地、古道
議 題	室蘭市のごみ処理・リサイクル事業の現状について
傍 聴 者	市民 2 名、報道関係者 2 名

1. 開会・委員紹介

(省略)

2. 委員長・副委員長の選出

- ・委員長 吉田 秀樹委員
- ・副委員長 亀田 正人委員

3. 議題

(1) 室蘭市ごみ処理・リサイクル事業検討委員会について（資料1）

<森川委員>

この行革プランは市民からも見ることは可能ですか？

<事務局>

ホームページに掲載しています。

<森川委員>

行革プラン 2016 の 1 ページ目に、毎年の行革の目標で先ほど 2021 年に 18 億円の不足。今年が平成 31 年、令和元年で、5 億円の不足。不足額は毎年増えてますが、このプランの計画だと平成 32 年以降ずっと増えています。ですから 18 億からの一部なのでもっと劇的に減らさないとなかなか財政は難しいのではないですか。

<吉田委員長>

後で説明いただきますが、全体的な予算のうち 8 億円くらいがごみ処理経費となっていますので、先ほど 18 億円近い不足額に対して、かなり支出減できると考えることもできます。この問題で解決したいので、今日は全体的な理解ということでお願いします。

<森川委員>

市民アンケートについてですが、第 2 回の検討委員会までに市民アンケートの結果が出るということですよ。そうすると、7 月か 8 月の早い時期にアンケートを回してしまうような形になりますよね。その場合、対象をどの程度に想定してアンケートを配る形になるのか、もし案が決まっておりましたら教えてください。

<事務局>

現時点では、市民2,500世帯へのアンケート実施を予定しております。

<森川委員>

これは無作為に選ぶのでしょうか。

<事務局>

無作為抽出です。

<森川委員>

いつ頃実施される予定ですか。

<事務局>

これから質問項目の内容について精査を行いまして、できれば7月中にはまず1度皆さんに見ていただいて、その後修正等を行い7月中には配布する予定でいます。

<森川委員>

ありがとうございます。

<吉田委員長>

他にご質問ご意見はありますか。

(発言者無し)

<吉田委員長>

後で戻ってご質問いただいても結構ですので、議事を進ませていただきます。

続きまして、室蘭市のごみ処理・リサイクル事業の現状と課題ということで、まず最初にごみの収集運搬、処理の費用について、説明をお願いします。

(2) 室蘭市ごみ処理・リサイクル事業の現状と課題について

①ごみの収集運搬や処理に要する費用等について (資料2)

<吉田委員長>

最初に説明のあった資料1ではわかりにくい部分も、今の資料2で現状のごみ処理費用について説明してもらいました。ざっくりいいますと、ごみ処理費用は1人あたりおおよそ10,000円がかかっており、そのうち処理手数料が2,000円、残りの8,000円は税負担となっています。これが今後、人口が減ると1人あたりの税負担額が増加してしまうという

ことですね。

基本的なことでは構いませんので、何かご質問等がございましたらお願いします。

<森川委員>

一般家庭ではごみ袋を購入してごみを排出しているが、30リットル用のごみ袋の値段はいくらでしたか。

<事務局>

30リットル用で1枚60円となっています。

<森川委員>

処理手数料で処理費用の全額を負担するとなると、ごみ袋の値段はいくらになりますか。ごみ袋の値段である処理手数料が全体のおよそ20%、残りの80%が税負担であると考えると、単純にごみ袋の値段を5倍にすると税負担がなくなるのではないですか。

<事務局>

1枚数百円とすると税負担はなくなると見込まれます。

<森川委員>

あまり本質を出されても、市民は実感がわかないと思います。市民レベルに合わせたものを示してもらいたいと考えています。

<石橋委員>

実際に1枚300円というのは可能ですか。

<森川委員>

税金のありがたさを感じながら、委託料を出してもらいたい。市民は税金よりも、ごみ袋の購入費用で処理費用の全額を支払っているのではないかと思います。30リットルの場合は60円の支払いで全て済んでいると。1枚300円であればごみを減量したり、リサイクルしようとするようになるのでは。市民に訴えていく方法を検討してもらいたいと思います。

<吉田委員長>

皆さんもご存じかと思いますが、室蘭市では平成10年10月よりごみ袋の有料化を行いました。この中にも当時、有料化の是非について審議したメンバーもいます。無償から有料になることについて個人でアンケートを行ったが、結果は反対が2割、賛成が2割、残

りの6割についてはわからないというものでした。もしこれが1枚300円であったのであれば反対が大多数になっていたと思われます。

有料化についても処理費用の全額負担を目的としたものではなく、40リットルで80円と処理費用の一部負担を目的としていた。当時は室蘭市に財政問題は無く、インセンティブを与えるものでありました。実際に有料化を行ってからは、ごみの排出量が減るとその分得になるのでそれ以前と比べ約2割のごみの減量となり、ごみステーションもきれいに使われるようになったとの話も聞きました。そのような当時と財政問題からきた今回では事情が違います。現段階ではなんともいえないが、将来的にはごみ処理費用をダイレクトに負担してもらうために段階的に値上げの可能性もあります。

<安部委員>

元々はそのような発想で、ごみ処理費用の全額をごみ袋の手数料でまかなえるものではないということですよ。

<吉田委員長>

そうですね。

<石橋委員>

自治体で一番ごみ袋の値段が高いのはどこになるのですか。室蘭市は全体でも高い方なのではないでしょうか。

<吉田委員長>

室蘭市はだいたい上限の金額です。他の自治体でも同様に手数料のみで処理費用の全額を負担したいと考えてはいないものと思われます。料金の話についてはここまでとしましょう。

<遠藤委員>

業者への委託料も処理費用になってくるのではないですか。

<吉田委員長>

細かい話となるので、今度にでも話しましょう。

<西畑委員>

室蘭市と同じような人口規模や面積、地形特性の自治体における比較データはありますか。

<事務局>

現時点ではそのようなデータはありませんが、今後必要なデータがあった際には、他都市に確認を行い次回以降提示できるようにしたいと考えています。

<吉田委員長>

似たような都市との比較だけでなく、ごみの排出が少なく、リサイクルが盛んな他都市との比較を行い、室蘭市の目標としたいと考えています。

<西畑委員>

室蘭市としても、どこを目指し、何が必要なのかという議論が今後必要になります。そのためにも目安が必要だと思います。

<安部委員>

先ほどの資料 2 で触れた、計画ごみ量についてもう一度説明してください。

<事務局>

平成 28 年 3 月に策定した一般廃棄物処理基本計画に基づいて説明します。広報 3 月号の資料をご覧ください。平成 25 年では 17,874 トンの家庭系ごみが排出されており、これは 1 人あたり年間 198 キログラムの排出があることを表しており、先ほどの資料 2 で示されている数値は 1 日あたりのもので、直近の平成 29 年度のものでは、市民 1 人あたり 179 キログラムの排出がなされており、基本計画にある計画ごみ量の 173 キログラムという目標には届いていませんでした。

<安部委員>

基本計画を立てて計画ごみ量を定めていたんですね。この目標値は市民には訴えたのですか。

<事務局>

広報紙で大まかな内容を、市のホームページにて詳細について掲載していました。

<安部委員>

目標値だけでなく、具体的に 1 日あたりどの程度ごみを減量しようとした目標値があるとモチベーションにつながると思います。

<事務局>

補足になりますが、基本計画も今回と同様に審議会を立ち上げ、委員の皆様から案を出

していただいて策定しました。策定後に、一部町会からは要望があり出前講座的に説明も行いましたが、おっしゃられたとおり、広報紙やホームページのみではなかなか市民全員には伝わっておらず、我々もこれを反省しています。今後は、市で作成した目標は出前講座等の皆さんに広める場を設けたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<菊池委員>

ごみを減らしましょうと言うだけでなく、具体的にどのようにして減らせばいいのか示してもらいたいと思います。私はコンポストを利用しているので、生ごみの排出はほとんど出ることがありません。このように具体的な方法を示してもらえるとわかりやすいです。

<事務局>

広報不足なのは確かですが、基本計画にも生ごみの水切りやエコバック持参によるレジ袋の削減、シャンプーの詰め替え用を購入するといった減量方法について記載していますが、広報不足のため見ていない人には伝わっておらず、目標値までの減量となりませんでした。市民への周知についても工夫して行きたいと考えています。今後も議論になっていくと思われるので、皆様におかれましても具体的な策も含めて次回以降もご提案いただければと考えております。

<吉田委員長>

ごみ量については次の資料3にて説明があると思われれます。

遠藤委員から指摘のあった委託料について、ごみの収集・リサイクルは業者に委託しており、一部は西いぶり広域連合が負担しているが、業者に委託料を支払っています。先程、ごみが減ると処理費用も減ると説明しましたが、人手不足から収集費用が将来的に高くなってしまいう可能性があり、そうなるとごみを減量しても処理費用が変わらない可能性もあります。このことについては、3つ目の議題で説明があります。

では、2つ目の議題であります、ごみの排出量等について説明をお願いします。

②ごみの排出量等について（資料3）

<吉田委員長>

ただいまの説明について、ご質問等があればお願いいたします。

（発言者無し）

1人1日あたりのごみ排出量の目標値と実測値が離れており、平成30年度では実測値は535グラムであるが、目標値は490グラムですね。

<森川委員>

食ロス世界的な問題となっており、様々な運動があります。昨年、室蘭市でも積極的に運動しようとなりましたが、最近になって急に動きがなくなってしまった。室蘭市町内会連合会でも、まずは我々から始めようということで、懇親会の開始30分は食べることに専念し、それから話し、最後の20分は自席に戻り食べ残しをなくそうという運動をしたが、なかなか浸透はしませんでした。食ロスの問題等、ごみの減量は多方面から進める必要があるので、皆さん1人1人の姿勢を示してもらいたいと思います。

菊池委員も話していたように、以前はコンポストの設置に助成があり、各家庭に設置するという運動がありました。言葉や文章だけでなく、実態を考慮し、市民目線で実感できる方法で市民に広報してもらいたいと考えています。広報紙には記載されているとのことでしたが、市町連でも広報紙を見ている人は少なく、一般市民は大多数が見ていないと思われれます。内容がわかりにくいことも含めて、市民に見てもらえる方法についても考えてもらいたいと思います。

<杉本部長>

様々な角度からのご意見ありがとうございます。食ロスについては、市民への啓発には難しいかもしれないが、ホームページや広報紙にて掲載しています。また、市役所職員においても、食ロスについて留意するよう30・10運動などをすすめております。いかにしてこのような実態を市民や市職員に浸透させるのか議論すると共に、この場の議論を通してまず委員1人1人から考えてもらうことが必要であると考えています。

<安部委員>

私は消費者協会から代表としてこの委員会に出席していますが、ちょうど消費者協会では食ロスについて考えようというアンケートの実施を考えているところであり、資料3にあった150袋も調べ、食ロスが2割もあったということで非常に驚きました。食ロスの課題は賞味期限や消費期限が問題となりますが、フードバンク等の食品を預けられる場所や廃油等の回収場所についても周知がなされていません。広報をどのように捉えているのかが大事なのではないかと感じています。

<遠藤委員>

こども食堂といった仕組みを考えてもらえれば市民も助かります。

<鈴木委員>

何年か前に市の職員と共に富良野市に見学に行ったが、富良野市ではごみを燃やさない、埋めないという指針の下、肥料等にしていたが、室蘭市ではそのようなことを検討したことがありますか。

<事務局>

一般廃棄物処理基本計画の策定に係る審議会の中で生ごみリサイクルについても議論になりましたが、多額の費用がかかることに加えまして、室蘭市の産業形態といった観点から、まずは家庭でできるごみの減量から進めようという結論になったと記憶しています。

<吉田委員長>

富良野市には焼却施設はなく、肥料にできなかったものについては近隣の市に焼却を依頼しているという特殊な例であり、室蘭市で同様のことを行うのは困難ではないかと考えられます。

<西畑委員>

ごみを出している側としては、ごみ袋に入れていけばそれで問題ないと考えている者が多いため、意識改革が必要だと思います。小型家電についても、ただごみとするのではなく、市内8ヶ所にて回収を行っているが、ごみステーションと併設して回収するなど、やり方を工夫することでごみの減量ができるといった、3Rの典型的な例をこの調査結果は示しているのではないのでしょうか。

<山内委員>

リサイクルできるものをしないで無駄なことをしていると、映像で示してもらえると市民にもわかりやすいと思います。

<塩越委員>

皆さんの意見を聞いていると、やはり市民への周知が必要であると思いました。私の周りでも、リサイクル可能なものが燃やせないごみとして出されていましたが、町会の回覧で周知したところ、そのようなリサイクル可能なものがごみとして出されることが減りました。

<菊池委員>

私の自宅の横にもごみステーションがあり、ルール違反をしているのは誰かは不明ですが、同一人物であると思います。そのルール違反によって、ごみがごみステーションから溢れてしまうこともあります。

<吉田委員長>

問題となっているのは、ロスをなくせるのかどうかということですね。また、情報が伝わりづらい人にどう伝えるのが大事なところです。先程話した有料化の際の意見として、無料だったものが有料になると、意識が向いてごみの減量が進むというものがありま

した。現在の料金に慣れてしまった家庭ではあまり減量に意識は向きにくいですが、料金が上がるとなれば意識が向いて、減量が進むと見込まれます。

ここまで話したのは家庭から出る家庭系ごみの話だが、飲食店での食べ残しは事業系ごみとなります。ちょうど、室蘭工業大学生協生活協同組合の石橋委員がいるのでお聞きしますが、工大生協ではなにか取組は行っていますか。

<石橋委員>

工大生協としては取組は行っていないが、大学生協全体としては取組を行っています。

<吉田委員長>

それはどのようなものですか。

<石橋委員>

大学生協内には、全国規模で環境問題について考える委員会があり、その中で取組を行っています。

<安部委員>

定かではないのですが、東洋大学では食ロスの削減のためにフードバンクをやっており、余った食材を集めていると聞いたことがあります。実施方法はいろいろあると思うが、反響は大きく、若い世代にも共感してもらえているようです。

<吉田委員長>

ここまでたくさんのご意見でいただいたように、広報が大事ですね。様々な方法で、いろいろな方々に知ってもらう必要があります。

<齊藤委員>

基本的なことだが、こういったことは何度も言わないといけないと考えています。シートベルトもしないと違反でお金を取られてしまうようになると皆がするようになりました。

吉田委員長からあったように、有料化を行った直後はごみの減量やリサイクルが活発に行われるが、その料金に慣れてしまうと段々と減量やリサイクルが行われなくなります。現場の話しになりますが、リサイクルもただ出して終わりではなく、一度洗浄してから処理する必要があるため、処理場にて洗浄を行っています。その負担も処理場が負っています。こういったことも含めて、何度も周知する必要があると考えています。

<菊池委員>

ペットボトルが海に流れているのも問題になっていますね。

<齊藤委員>

やはり、繰り返し繰り返し周知する必要があります。

<吉田委員長>

ごみの排出とリサイクルの状況について説明いただいたわけですが、リサイクルについてひとつ。室蘭市では資源ごみがおよそ 1,100 トン程度排出されています。空き缶は 1 つでおよそ 30 グラムくらいであり、1 人あたり年間 1 キログラム程度排出しているの、空き缶で換算すると 300 個くらい年間で排出していることになります。資料にもあるとおり、リサイクル費用はごみ処分に比べ 3 倍近くの費用がかかっています。これは、資源ごみの輸送は実際には空気を運んでいるようなものであるのが原因です。リサイクル費用も市が支払っているの、間接的には市民が支払っているようなものです。ペットボトルは 1 個の原価は 10 円に輸送料が 1,2 円ほどかかるため、消費が増えるほど、リサイクル費用も高くなります。リサイクルが大切なのは確かですが、必ずしもリサイクルすることが大事なわけではなく、ごみの排出を抑制し、減量していくことが大切です。ごみの排出量については以上となります。

では次に、ごみ収集作業員の現状とごみステーションについて、説明をお願いします。

③ごみ収集作業員の確保について（資料 4）

<吉田委員長>

資料について説明いただいたわけですが、なにか質問はありますか。

<亀田副委員長>

資料 4 の右側にあるとおり、室蘭市の人口は年々減り、ごみステーション数は増えてきているが、これは何が原因なのでしょう。説明にあったように、設置規約がないことが原因となっているのでしょうか。

<事務局>

室蘭市に設置規約がないのは確かなのですが、増えている主な原因としては、八丁平や知利別町といった新興住宅等で、10 世帯が共同でごみステーションを利用していたとして、そのうちの 1 世帯が引っ越しをしたとしても、残りの 9 世帯がそのごみステーションを利用するため全体の数は減らないが、引っ越した 1 世帯が引っ越し先で新たなごみステーションを設置するといった事が考えられます。他にも、通学路のため大きなかごを設置できないといった地区の事情により各家庭が軒先に出さざるを得ないため、ごみステーションの集約化が困難な地区もあります。

室蘭市としましては、突如皆さんにごみステーションを集約化してくださいと言うわけ

ではなく、古くなったごみステーションのかごを買い換えるといった際に、町会やごみステーションの管理者に呼びかけを行っていく中で集約化を目指していきたいと考えています。

<亀田副委員長>

設置規約がないために、この地区ではこれ以上設置できませんとか、人口が減少したのでごみステーションを減らしますといったことを言えないのでしょうか。

<事務局>

ここ数年のごみステーションの増加については新興地区での増加によるものと考えています。と言いますのも、先程も地域的な事情があると話しましたが、同じ室蘭市でも幸町と石川町では1軒1軒の距離が大きく違いますし、緑町のように急な坂の多い地区もあり、一定の基準がないため、設置の際には一度市までご連絡いただき、近くにごみステーションがあるのであればそこを紹介し、可能な限り利用してもらえるようお願いしています。近年の増加分についてはこのようにしているものの、古くから設置されているもの等、同様に扱うことが困難なものもあります。

<吉田委員長>

事務局よりご説明いただいたとおり、増加の原因ははっきりとはしていないが、古いものには手をつけづらくなっているのです、このことについて、室蘭市でももう少し議論してもらいたいと思います。

ここでの資料説明は収集業者にも係わる内容ですので、清掃事業協同組合の齊藤委員より説明してもらいたいと思います。

<齊藤委員>

現状と言うことで説明させていただきます。ごみ処理とリサイクルは元々市の固有の業務でありましたが、より業務に精通している業者に行ってもらうため、平成5年より業務委託が開始されましたが、近年では業務を遂行していく上で、作業員の確保が困難になっており、将来的には収集業務体制維持にも影響を及ぼす可能性があるものと考えています。

ごみの収集業務は3K、5Kと言われるように、祝祭日も業務があり、休日も少なく、給料も安いことから若者にも嫌われています。今後、人口の減少と共に定着率も低下していくと、現在の2人体制から高齢者の3人乗車も考えられます。さらに、最近では高齢者のごみ出し負担を考慮し、家庭ごみの戸別収集も囁かれています。そうなると、現在のごみステーション数どころではなく、各家庭でごみの収集と安否確認をしなくてはならなくなると、非常に負担が増えてしまいます。

業務の見直しについても進めており、効率化を図るため、現在ではごみ収集3社、リサ

イクル3社の合計6社で行っているが、これを1社に集約したいと考えていますが、生半可に行えるものではなく、室蘭市と協議しつつ民間企業寄りの考えの下で、収集作業員の確保を行っていかねば今後より大変な時代になると思われま

す。また、収集作業員の確保を考えるうえで、今年の10連休では室蘭市と協議を重ねやっ

と2日間の休みを確保できたが、収集作業員は基本的に休みなく働き続けるものであり、法律で決まった働き方改革では5日間の有給休暇を取ることが義務づけられており、大型連休以外の祝祭日の休みについても考える必要があるのかと考えています。

中国の廃プラスチックの受入れ拒否についても、外国には運ばず、室蘭市でも排出量が増えていないことから、今後、廃プラスチック収集を廃止し、一般のごみとして焼却することについてこの検討委員会においても検討していく必要があるのではないかと考えています。

<森川委員>

非常に厳しい状況です。齊藤委員の話にもあったとおり、収集作業員はごみを走って取りに行く姿をよく見かけ、非常に大変であると感じている。我々、市民目線だと、ごみステーションは町内会が役割として管理しています。室蘭市では高齢化が進んでおり、コンパクトシティを進めているが、実際には上手くはいっておらず、1軒と1軒の間が離れているという問題があり、その問題の1つがごみ問題です。ごみステーションの集約はもっともな話ではあるが、蘭西と蘭東でごみステーション数に差があり、蘭西は高齢者が多いので、町内会が協力して高齢者のごみを排出する必要があると考えています。

市民にとっては、ごみステーションや収集作業員の問題が今日話した他の課題よりも大きな問題です。今回の検討で全ては決まらないが、ごみステーションをどうしていくのか、収集作業員の作業量を減らし、市民の負担も軽減していくことは真剣に検討をしていかなければいけない、室蘭市全体の大きな問題です。人間が生活していく上でごみは切り離せないものであるため、そのあり方について検討が必要だと考えています。ごみ問題をしっかりとしないと都市は成り立たないため、市民へも示しつつ、検討を行っていきたいので、委員の皆様には今後ともよろしくお願

<吉田委員長>

今回の検討についてはここまでとしたいと思います。

ここまで様々な説明をいただいたが、単にごみを減らすだけでなく、費用対効果も含め、どこにお金を支払い、どのようなサービスを受けるのか、例えば高齢者への戸別収集を行う委託料を支払うことで、作業員の待遇改善を目指すのか、あるいは作業効率を良くして作業量を減らすなど、どのような選択をするのが大切になります。

これまでは、ごみ処理は別枠で考えられ、多額な費用がかかっているにもかかわらず、市民の皆さんの目には見えないところにありました。それがここ数年の財政状況の悪化か

ら問題が顕在化し、市民のレベルでどのような選択をしなければいけないのかということで、この検討委員会が立ち上げられました。今回は室蘭市の現状についての説明でしたが、次回以降も、委員皆様のそれぞれの立場で考え、意見やアイデアを提案してもらいたいと考えています。

以上で、議事を終了させてもらいたいと思います。最後に、その他と言うことで事務局より説明をお願いします。

<事務局>

その他として3点ほどお伝えしたいことがあります。

1点目として、市民アンケートの実施です。7,8月中の実施を考えており、まず室蘭市でアンケートの内容について作成し、各委員に内容を確認してもらい、必要であれば修正を行った上での実施を考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

2点目はスプレー缶についてです。現在は燃やせないごみとして収集していますが、これを分別収集とする動きがあります。昨年、メルトタワー21にて大規模な火災が発生しました。原因の特定はなされていませんが、恐らくスプレー缶、乾電池、ライター等が原因として疑われています。これ以外にも、ごみ収集車の火災も年に数件発生しているため、事前防止のためにもスプレー缶の混入防止策を現在、西いぶり広域連合にて協議中であり、今後、スプレー缶類が燃やせないごみではなく分別収集となることが予想されます。西いぶり広域連合では遅くとも令和4年の10月には全構成市町での廃止を検討しています。また、現在は排出者に穴を開けてからの排出をお願いしていますが、分別収集となった際には穴を開けないように周知することにもなると思われれます。

3点目として、次の開催日程について、資料1では9月末での開催とお伝えしていますが、市民を代表しての検討委員会であり、より多くの委員のご出席の下で様々な意見や検討を行いたいと考えているため、次回開催日についても、委員の皆様の都合を確認した上で開催日を決定したいと考えています。つきましては、後日、書面等でご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

1点補足させていただきます。市民アンケートの実施についてですが、7,8月と周知させてもらいましたが、環境課では現在2種類のアンケートを並行して行っており、今申し上げたごみ・リサイクルに係わるものの他に、環境基本計画の策定に係わるアンケートを本日発送しています。皆様やその周りの方々に届く可能性があり、どちらのアンケートも大切なものでございますので、混同されることのないようにお願いいたします。

<吉田委員長>

それでは、本日の議事を終了し、事務局にお返しします。

<事務局>

吉田委員長ありがとうございました。委員の皆様におかれましては、本日は限られた時間の中で大変貴重なご意見を多数いただきまして、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。